

事例NO	年齢代	性別	職業	家族構成(詳細)	住居	保険	保険の推移	国保法44条にもとづく減免適	無料低額診療事業の適応	初診日	通院状況	死亡日	死因	事例(受診に至る経緯、職歴、世帯収入の経過)	事業所とのかかわり	結果(帰結)	自治体の生活保護対応など
1	40代	男	その他(建築業)	子どもの頃に親に捨てられ祖父母宅で生活。祖父母はすでに他界。	借家・アパート	国保短期保険証		無し	無し	2012.05.25	治療中	2012.09.12	病死(進行食道癌)	2012年3月食事中にのどのつまりを自覚(体重57〜58キロ)。水分は摂取できるも徐々に悪化。4月末から固形物が飲み込めない状況。5月に入り嘔吐、つば様嘔吐、咳が出る。出血は無い。黒色便(-)、便通3〜4日に1回。腹痛下痢症状は無し。受診時体重51.8キロ。12歳より喫煙。過去の既往歴30歳肋骨骨折で外来受診1回。入院歴は無し。職場健診は受けたことが無い。建築業。月給制だが休んだ日の分は無給。「治療に長くかかるのは困る。」今回、国保短期証で受診、5月末に3万円支払うことになっている。貯金・借金は無い。	5月25日の受診のみ。	2012年5月25日、当クリニック受診。食道の狭窄を認め、その場で5月30日胃カメラ予約。5月30日病院にて進行食道がんと出血を認め、直ちに高次医療機関に紹介。同日、紹介先病院受診し、そのまま入院となる。(以下、紹介先病院報告書の要約)6月と7月に化学療法2コース行うもほとんど効果なく、症状緩和を含め7月30日放射線化学療法に切り替えるも、衰弱し、9月12日永眠されたとのこと。	記録無く不明。(聴取内容から推測すると申請の歴は無いと思われる)
2	50代	女	非正規雇用	32歳の娘と二人暮らし。娘が対人恐怖などあり仕事ができている。	一人親世帯	国保短期保険証		無し	有り(生活保護の申請もせずに考えたが分譲マンションが有りそれを処分してからの方がいいと保護申請をしない。家族申請をしない。しかし手持ちとしてはほとんど無い状況であったため申請した。)	2012.09.12	その他(国保料も払えず通院できていなかった。)	2012.11.23	病死(悪性リンパ腫)	娘と同居しており本人の70000円くらいのパート収入で生活していた。持ちマンションがあり家賃がかからなかったのでもんとか生活していた。国保料も払えず受診ができなかったが、あまりにも我慢ができず9月12日受診。すぐに入院など必要となり当院へ転院。当院で治療のできない血液の病気で9月19日他院へ転院。	受診した際にSWがかわかり娘さんに国保証発行してもらったための相談に行ってもらい短期証を発行してもらった。当院へきた際にも相談するも本人の収入しかない状況でこれからの生活費もままならない状況であったためすぐに生活保護の相談にも行っていただいた。持ちマンションを処分してその費用で当面生活をしていたほうが良いといわれ家族申請しなかった。	家族としては、すぐに家売るにもどうして良いか考えられず、どちらにしても当院の医療費支払いは困難と判断し無料低額診療制度を申請することとした。9月19日に治療のため転院し11月23日に亡くなった。(転院先より情報提供をいただいた)その後、状況の確認はできていない。	当面の収入がないことから持ちマンションではあったが、生保申請に行ってもらったが先にマンションを売ったほうが良いといわれてそれ以上の対応を行わなかった。
3	50代	男	無職	結婚歴あるが離婚。子どももいるが疎遠。	その他(会社寮)	無保険		無し	無し	2012.07.16	その他(通院無し)	2012.08.03	病死(原虫不明症・急性腹膜炎)	受診1ヶ月前から腹痛、食べ物を吐くなどの症状が出現。我慢できなくなり兄へ連絡し、当院へ救急搬送され入院となる。姉・兄いるが5年間音信不通だった。事業に失敗して、本人は逃げたため音信不通だった様子。父親は亡くなっており、母親は寝たきり入院中。入院前は知人宅に身を寄せていた状況。無職のため収入はなし。	家族宅から近い当院へ救急搬送され、無保険の状況だったため病院住所で生活保護の通報申請。腹痛が強く会話もやや困難な状況。精査の結果、腹腔内悪性腫瘍、多発リンパ節転移、癌性腹膜炎の診断で即日入院。全身状態悪く、積極的治療困難な状況のため家族と相談し緩和の方針となり、7月20日緩和ケア病棟転科。	生活保護申請から10日程度で生活保護受給決定となる。8月3日に永眠される。	
4	60代	男	非正規雇用		その他(会社寮)	国保資格証明書		有り	有り	・2011.11.29入院 ・2011.12.22転入院	治療中	2012.01.01	病死(胃癌術後重症呼吸不全)	3ヶ月前から胃痛自覚。経済的理由から我慢していたが、痛みに耐えかね受診。資源回収の会社に勤務。兄弟いるが連絡とっていない。	転院されたときは、すでに生活保護決定しており、保護課と連絡調整、保護費受け取りなど支援。	2011年12月26日胃癌に対し手術。2日後にイレウスのため手術。その後誤嚥性肺炎併発した。12月31日呼吸状態悪化し、人工呼吸器装着しICU管理。2012年1月1日死亡。	2011年11月29日入院と同時に生活保護申請し決定。
5	60代	男	非正規雇用	妹宅や知人宅で生活	その他	国保短期保険証		無し	有り	2012.06.26	中断(自院)	2012.08.17	病死(悪性リンパ腫)	妻とは3年前から別居(籍はあり)もともと仕事の関係で不在が多く、ほとんど家になかったよう。知人宅でお世話になったり、妹さん宅でお世話になったりしながら生活してきた。仕事はまちまちで、昨年は船に乗って魚を網からはずす仕事をしたりしていた。3月より時々発熱あったが、市販薬で軽快。4・5月より持続の発熱となり市販薬も効かなくなった。お金もなく、受診も遅れた経過。	6月よりひどい発熱と倦怠感を自覚するようになり、食欲低下の主訴で6月26日受診。7月4日肺炎と慢性肺炎気腫のため入院。7月5日妹さんより、医療費の相談有り、無料低額診療の申請とした。	検査にて、多発性脾梗塞と合わせて腫瘍塞栓が考えられ、精査のため7月6日転院。悪性リンパ腫疑い、治療のため7月13日他院転院。	7月10日生保申請 7月24日生保決定 (7月10日より適用)
6	60代	女	アルバイト	夫婦のみ	借家・アパート	国保短期保険証		無し	有り	2012.11.04	中断(他院)	2012.12.28	病死(脳腫瘍・肺炎・多発胸椎腫瘍)	夫と二人暮らし。これまで夫の出稼ぎと、手間取り、本人の(シルバー人材登録の)アルバイト代で生計を立ててきた(月平均9万円程度)。夫婦には子どもも無く、甥を養子に迎えるも、住宅ローンが払えなくなつた頃から縁が切れた。結果的にローンが払えず2〜3年前自己破産。長期間の固定資産税。国保料滞納があり、総額100万円程度になっている。自己破産の際、弁護士に生活保護利用を進められたが、夫婦ともに働けるためもう少しがんばりたい、と申請はせずきた。夫は冬から春にかけてと夏場2ヵ月程度関東へ出稼ぎ。何とか夫婦二人が食べていける程度の収入、とても保険料に回す余裕がなかったとのこと。年金保険料も払えず無年金。長い間国保の保険料も滞納が続き、短期保険証となりついに2012年10月より資格証となる。	10年前、脳卒中で他院へ入院。その後高血圧で他病院に通院していたが、4〜5年前、金銭的理由で中断。2012年9月頃より腰痛で他整形外科クリニック通院。2012年10月初旬より倦怠感などの体調不良有り、とのことで同年11月2日近所の個人病院を受診。血液検査を実施。2012年11月4日、頭痛を訴えERへ救急搬送。その際元々の高血圧の治療を中断していることがわかり、ERより再度内科受診をすすめていた。11月2日の個人病院での検査上、精査は必要とのことで11月5日に紹介状をもらい、11月6日受診となる。対応困難な状況のためERへ、そのままオーバナーナイトの上11月7日入院となる。資格証になってからも何度か整形を受診し10割で支払い。個人病院、当院受診も10割で支払いをしたが、これ以上10割での支払い継続は厳しいと、11月6日保険料8万円を支払い短期保険証を発行してもらった後に受診となった。国保証取得までの医療費10割負担、国保料の支払いで9万円程度の出費があった。金額払った医療費の戻り7割分も自動的に保険料未納分に当てることが決まっている。	ER受診し、輸血が必要だが医療費が心配とのことSWに介入依頼あり。その時点で詳しいお話を伺い、無料低額診療の申請に至った。同時に国保44条利用の可能性についても追求。夫に国保課に分割払いの相談をし、1割負担でサービス利用可能となった。それでも、施設利用料の支払いが困難なために立てていたため利用できず。入院後、詳しい検査を行ったところ、脳腫瘍、多発胸椎腫瘍が見つかった。放射線治療のため、12月21日他病院へ転院。転院時点で患っていた肺炎の急激な悪化により12月28日永眠される。	ある程度、ご本人の状況が落ち着けば施設入所の方であった。介護保険料の長期滞納により、介護保険利用料も償還払いとなっていたが、ご家族が分割払いの相談をし、1割負担でサービス利用可能となった。それでも、施設利用料の支払いが困難なため、施設入所時点で保護申請の段取りで事前に生活保護担当者とは打ち合わせ、了解を得ていた。
7	70代	男	その他(介護)	知人と同家の一室を借りていた。	借家・アパート	無保険		無し	無し	2012.08.29	その他(約2ヶ月前から体調不良だったが、無保険のため受診できなかったようである。)	2012.10.16	病死(進行性胃癌)	関東出身者だが仕事や家庭の事情で各地を転々としていた。	本人の希望で入院と同時に生保申請をした。	生活保護は決定したため入院費の心配はなかったが、離婚した妻との間に娘がいたようだが、生保でも追跡が難航し、死亡まで間に合うことができなかった。	

事例NO	年齢代	性別	職業	家族構成(詳細)	住居	保険	保険の推移	国保法44条にもとづく減免適用	無料低額診療事業の適応	初診日	通院状況	死亡日	死因	事例(受診に至る経緯、職歴、世帯収入の経過)	一歩負担金	事業所とのかかわり	結果(帰結)	自治体の生活保護対応など
8	40代	男	無職	二世帯同居 母と二人暮らし	その他(不明)	無保険	2010年05月退職し組合健保資格喪失以来無保険状態。	無し	無し	2009.07.11	中断	2011.12.31	その他(不明)	2010年5月で外来通院中断。2011年11月19日予約外受診し(血便、しばしば受診せずがまんしていた)、他院へ検査のため紹介。急性肺炎、急性心筋梗塞、アルコール依存症疑いで、2009年より治療していた。退職後は母の年金を頼りに生活していた。退職後は母の年金を頼りに生活していた。	0円	2011年11月19日無保険で受診。12月21日も同様。金額自費で未収無し。保険薬局よりMSWIに相談有り。2度本人と電話で話した。国保加入の意思あると言いが、お金がない。手続きが面倒と。援助も申し出たが、まず区役所に行ってみると言っていた。	処方が切れる時期にさしかかり、2012年01月31日自宅へ電話すると、母から「12月31日あの世へ行った」と告げられた。	
9	50代	男	自営業	一人親世帯 20歳代の娘と2人暮らし。	その他(不明)	無保険	に国留保↓置税滞りだった保険料は役所で	無し	不明	2012.11.19	中断	2012.11.19	病死(脳幹出血)	2007年10月仕事の中めで受診し3日間入院している。その際、高血圧症、アルコール性肝障害のため通院を指示されたが、翌3月まで4回受診後は中断している。2012年4月に鼻出血で救急外来受診。今回自宅で倒れたのを弟さんが発見し救急搬送された。到着時、心肺停止状態で救命処置施行されたが死亡。死後実施の検査で脳幹出血が判明し死因とされた。仕事は電気工事の自営業。07年のカルテでは多忙、不規則、高所作業、ストレスの記載有り。同居の娘さんは日中仕事に出ていて健康保険も別。父の体調や保険証がないことも気づいていなかった。			役所に保険の有無を確認した際、保険証留め置きが判明。	
10	60代	男	非正規雇用	独居	借家・アパート	無保険	ず生。保廃止後国保手続きせ	無し	無し	2012.11.20	その他	2012.12.23	病死(胃癌・多発肝転移・リンパ節転移)	無低診での受診相談あり。国保も手続きしていなかった為受診前に窓口相談を勧めた所、生保申請となり同日来院。諸検査の結果食道がん疑いで即日入院。H22年12月～翌3月まで生保受給していたが月10万の年金支給が開始され4月で廃止、その際国保の手続きせず。H24年の夏頃から体調不良を感じるも市販薬等で誤魔化し健診や病院受診は20年以上していなかった状態。民間救急運転手として日当て仕事していたが勤務日少なく、月数万程度。		入院後の精査で胃がんの浸潤と多発転移の診断つき、本人希望で化学療法1クール行ってもデータ悪化し予後不良。近隣に妹がおり関係性はあった為、病状説明に来院してもらい、本人希望の外出(遺孥と自宅)にも同行してもらえたが、その後さらに状態悪化。	そのまま退院できず、約1ヶ月で看取りとなった。以前受給していた経緯や相談に支援者が同行した事もあつたか申請はスムーズ。その後アパート更新の手続きや家財処分相談にも担当者は前向きに対応していた。	
11	60代	女	自営業	夫婦のみ	借家・アパート	無保険	無保険↓国保↓生保	無し	無し	2012.03.22	中断(自院)	2012.05.10	病死(大腸癌)	夫婦世帯で自営業(居酒屋を経営)。経営は厳しく、経済的な事情から無保険となっていた。	0円	2012年3月22日、本人から体がだるく、食欲がなく、急に痩せてきていて病院で診てもらいたいが、保険証がないと電話で相談があり、その日のうちに受診に来て頂いた。同日については外来受診のみで、初診日について後日国保証が発行された。翌日、当院入院となり、その日に生保申請も行った。	生保申請は通り、入院での治療を継続したが、一度も自宅に帰ることなく、5月10日に永眠された。	3月22日受診時は保険証もつておらず、後日国保証発行を受け支払い。資格証明書発行の有無は不明。3月23日入院時に生保申請し、生保の適用となる。
12	60代	男	アルバイト	独居	アパート	無保険	活無保護↓国保↓生	無し	無し	2011.12.19	その他(未治療)	2012.02.24	病死(胃癌)	数年前、他県から妻子を残し一人上京。職権消滅となっていた(借金が原因)。アパートを借り居酒屋でアルバイトをして独居生活をしてきた。胃が痛くなり、無低を当院でやっている知人を頼り、SWへ相談となる。	0円	クリニックを受診。入院での検査・治療が必要なため病院へ入院。職権消滅になっていたため住民票復活等SW支援。住民票復活と同時に国保加入、その後入院初日から生活保護となった。診断の結果胃癌ということが判明した。	胃癌の治療をしたがすでに進行しており当院で死亡。その間知人から本人の元へ連絡がなくなり、なくなる間本人と面会できた。	SWより役所へ連絡。役所も親身に相談を受けてくれ、入院日より生保開始となった。クリニック外来は本人所持金あつたため、本人支払いとなった。
13	70代	男	自営業	夫婦のみ	借家・アパート	国保短期保険証		無し	無し	2012.11.30	その他(自院通院なし、他院は不明)	2012.12.04	病死(脳腫瘍)	道路工事の下請け自営(次男と共同)、機材購入にて借金200万あり。国保料・住民税の滞納あり、生命保険を差押えられた。3年前より体調不良あつたが、受診控えていた。親族より当法人診療所の受診をうながされ受診。当院空床なく、他病院は差額ベッド代が払えないため入院決定できず、予約対応となった。入院予約前日に急変、他院搬送され死亡された。	0円	入院をすすめたが、予約対応となった。	他院にて死亡。	
14	60代	女	無職	夫婦のみ世帯 内縁の夫と二人暮らし	借家	国保短期保険証	国保↓短期証	無し	有り	2012.09.24	中断(定期的な通院歴は無し)	2012.11.25	病死(肺癌)	夏ごろから、背中～下腰にかけて痛みがあつたが金銭的な余裕がなく受診を我慢していた。内縁の夫(元夫。現在は離婚している)と二人暮らしで、アルバイト等していたこともあつたが、痛みが出てからは仕事ができなかった。内縁の夫も仕事がなく無収入。貯蓄もほとんどなく、友人からお金を借りて生活していた。家賃の支払いも数ヶ月滞っていた。大学をでたあとは実家の飲食店を手伝っていた。店を畳んでからは社交ダンスの講師をしていた。それ以外はアルバイトをしたこともあつたが身体の痛みも出てきて安定した就労には結びつかなかったよう。		当院初診は9月24日。看護士より相談室へ介入依頼の連絡があり、27日にMSWが本人と面接。その後内縁の夫とも相談をし生活保護の申請をしていくこととなった。生活保護申請以前の医療費は無料低額診療事業を利用した。検査の結果末期の肺癌が見つかり10月22日に入院となった。発見時には既に手遅れの状態であった。	入院した頃はまだ会話ができて食欲もある状態であったが、徐々に痛みが強くなり、意識も朦朧とした状態となった。入院中に海外に住んでいた娘(元々夫との娘)が帰国し、最後は訪問看護・往診を利用しながら、内縁の夫と娘の介護のもと在宅での看取りとなった。	10月初旬に生活保護の申請を行い、支給決定が下りた。

事例NO	年齢代	性別	職業	家族構成(詳細)	住居	保険	保険の推移	国保法44条にもとづく減免適	無料低額診療事業の適応	初診日	通院状況	死亡日	死因	事例(受診に至る経緯、職歴、世帯収入の経過)	一部負担率	事業所とのかわり	結果(帰結)	自治体の生活保護対応など
15	60代	男	無職	夫婦と成年子世帯	借家・アパート	国保短期保険証	入院後すぐ夫婦のみの世帯となった。	無し	有り 生活保護申請までの間の医療費の支払いが困難なため、無料低額診療事業を適用した。	2012.06.19	定期的な通院歴はなし。	2012.08.18	病死(肺癌)	妻と娘と3人暮らし。その後娘は結婚が決まり引越した。夫婦のみとなる。体調不良は1年前からだ、借金もあり、保険料の滞納にて短期保険証。受診が延ばし延ばしとなり、2012年6月に入り急激に悪化。6月18日近医に受診。6月19日当院外来に紹介にて初診で来院。6月29日に当院に入院となる。検査結果から肺癌、すでに肝臓にも転移があることが分かった。本人は重機オペレーターの仕事を40代から65歳まで行ってきたが、倒産してしまう。その後はアルバイトで道路の舗装の仕事を入院直前の5月までしていた。収入は妻の年金月35,000円。本人無年金。本人は当時月22万くらいの収入があったが、アルバイトでは月給8000円で月10日が最高で月80,000円。入院直前は体調悪く収入がほとんどなかった。家賃は7ヶ月・カードローンも30万・保険料も滞納していた。		7月12日に妻が相談室を訪ね、生活状況が分かり病状と照らし合わせると医療費の支払いとともに今後の生活に際しても困難状況となってしまふこと、子どもが6人いるがそれぞれ家庭の事情があり、援助していくことは困難ということから生活保護の提案をした。	2012年7月17日～受給開始となった。その後病状も悪化していき8月18日死亡となった。	
16	50代	男	無職	夫婦と成年子世帯	持ち家	国保短期保険証		無し	有り 妻のパート収入と失業保険の収入で、収入金額は生活保護以下であった。更に住宅ローンの支払いが生活費を圧迫しており、生活保護基準の47%となった。	2011.03.25	初診	2012.05.24	病死(胃癌)	地域からの紹介で「食べられなくて痩せてしまっている方がいるが、お金がなくて受診できない」と相談があった。SWが自宅を訪問し受診を勧め治療を開始した。バスの運転手をリストラ後派遣の仕事についたが失業。経済的に困難していた。収入は失業手当と妻のパート収入(前年の年額78万)で生活していた。妻のパート収入を含めて15万。入院後は妻のパート収入のみで8万。入院に伴い妻はパートの仕事を1つ増やし14万8千円となった	57380円		進行癌。狭窄が高度で摂食障害があり、EDチューブ挿入し栄養確保した。化療を行い腫瘍縮小リンパ節縮小したところで全摘手術を行った。その後も化療を続けたが、2012年6月24日亡くなられた。	車の所有があり不可。
17	60代	男	非正規雇用	独居	借家	無保険	協会けんぽ→無保険	無し	不明	2012.02.11	その他(未治療)	2012.03.15	病死(肺癌)	警備会社に10年以上勤務。65歳までは正社員だったが、以後、臨時職員扱いとなり社喪失。国保加入しておらず。給料は約16万/月。定期健診の有無は不明。出勤途中で呼吸苦出現し救急搬送。	0円	搬送時、無保険。救外で意識レベル低下し、挿管となったため詳しい生活状況や意思確認できなかったが、会社からの情報収集や他県在住の兄との相談の結果、職員にて国保加入手続き代行と生活保護申請を行った。	病状は肺がん(脳、副腎転移疑い)に肺炎併発。一時、安定し抜管できたが四肢の脱力、食事摂取不可で点滴管理。緩和ケア病棟待機中に永眠。	国保加入と生活保護申請同時にしたが、結局、生活保護適用(本人支払いあり)となった。
18	50代	男	無職	長男・次男就労者	持ち家	国保資格証明書	資格証→国保証	無し	無し	2012.08.18	その他(初診療日当日に亡くなられた)	2012.08.18	その他(不明)	2012年8月18日、自宅にて心停止状態で見送られ救急搬送された。息子様曰く、「数年前から動けなくなり仕事やめた(できなくなりました)。病院も一切かかっていない。苦しかったらうに…病院に連れて行けなかった…」とご自身を責められた。ただ、受診して入院が必要と言われても、その時入院費が支払えていたか…とも思う、と。	0円	救急搬送日が初診日	2012年8月27日、当院MSWより国保課へ電話。8月18日は国保適用とするとの返事、3割負担。国保課職員の話では、2012年8月17日に本人の妻が保険証のことで相談の電話があったが、未収(未納)があるのでと見え市役所へ来るように伝えていたとのこと。	相談しておらず。
19	50代	女	非正規雇用	夫婦と未成年子世帯	借家	国保資格証明書	国保→国保資格証明書	無し	有り	2008.06.04		2012.06.23	病死(胸部大動脈瘤破裂)	家族3名(本人、夫、息子19歳)の世帯。夫はトレーラー運転手。以前は自営でトレーラーを転がしており、15年前の月収は250万円だった。トレーラー購入によるローンが月30万円程度。リーマンショック以降、仕事が激減。やむなくトレーラーを手放すもローンは残存。自営をやめ、手放した先で月30万円程度のサラリーをもっているが、その殆どがローン返済に充てられていた。本人はその頃よりパート勤め開始。近所のスーパーと同スーパー内のパン屋で働く。労働時間は多い時で日に14時間にも及ぶ。月収14~15万円。息子はフリーターで非正規雇用。本人の収入で世帯の家計を養っていた様子。水道光熱費など借金することもあった。死去された当時も貯金残高殆どなし。葬儀代の100万円もローンで支払う予定にしている、とのこと。	調査中	2008年6月4日に初診。高血圧の治療開始。治療といっても、検査はほとんど行わせない。診察受けるも投薬のみが殆ど。投薬内容は全てが降圧剤だった。資格証明書が発覚したのはレセプト返戻。国保証確認お願いしても「今日忘れた。また今度。」と断り続けていた。2012年4月10日頃に本人へ電話。国保復帰を前提に窓口に行こうと無料低額診療での治療継続、最低でも服薬は継続する旨を伝えた。以降本人からの連絡も、今回の事例に至る。	資格証明書であったため、治療を中断していた。服薬の代わりに通販でのサプリメントを代用(血圧下がるものか)。2カ月服薬中断した結果、2012年6月23日 午前8時45分背部痛を訴え、その後腰痛(夫の聞き取りではかなりの激痛だった様子)に移行し、そのまま横に倒れ込み、夫の腕の中で意識喪失。脈も触れず、救急隊から救急病院へ搬送されるも、蘇生の期待なく10時15分死亡確認となった。診療所からの資格証明書の確認後中断していたことや降圧に期待できない安価なサプリメントをあえて選択し、安堵感を得るためサプリメントを投薬の事実すり替えていたこと、数種類の降圧剤を中断した結果短期間で動脈瘤破裂に至った。	資格証明書となった当初は、国保窓口へ電話でのやり取りを行っていたらしいが、窓口へ来ることだけ伝えられたこと、窓口での対応では、夫の収入と本人の収入が収入認定され、月額3万5千円の保険料となっていた。ローン返済分は考慮されず。結果、以後も滞納となっていた。
20	60代	女	無職	知人と同居。知人宅に居候。知人は年金収入あり。	その他	無保険	きり協で証会無し 保険金減額状況証明 懲罰国保措置短	無し	無し	2012.07.28	その他(通院していない)	2012.10.19	病死(出血性ショック【出血性十二指腸潰瘍】)	20歳頃に結婚、出産してすぐに家を出ている。夫や子供の所在は不明。市内の工場で働いていたが、2年前に失業し、市営住宅の家賃が払えなくなり、知人宅へ居候。本人は無年金のため知人の年金収入で生活していた。国保料も滞納し、保険証がない状況。6月頃から歩行できなくなり、食欲低下もあったが保険証がなく受診できなかった。発熱と腹部痛で7月28日に救急搬送される。		知人と相談しながら、国保課と話し、短期保険証発行。国保料滞納のため減額認定証が出ず、高額療養費負担制度を利用。知人も今後の面倒が見れないことから、生活保護申請をおこなう。	高熱が続く、原因特定に時間を要した。血球貪食症候群と診断。多発十二指腸潰瘍などに対し治療をおこなうが、状態改善せず、亡くなられる。	入院中に生活保護開始となる。生活保護になるまでの医療費について、当初は一部負担金減免申請ができなかったが(知人と同一世帯とみなされた為)、保護課と国保課が相談し、免除されることとなった。また、保護課から親族探しもされ、最期は娘さん連に来院頂いた。

事例NO	年齢代	性別	職業	家族構成(詳細)	住居	保険	保険の推移	国保法44条にもとづく減免適	無料低額診療事業の適応	初診日	通院状況	死亡日	死因	事例(受診に至る経緯、職歴、世帯収入の経過)	一部負担金(国保)	事業所とのかかわり	結果(帰結)	自治体の生活保護対応など
21	60代	男	年金受給者	夫婦のみ世帯 本人・内縁の妻	借家・アパート	無保険	無保険 ↓ 国保	無し	無し	2012.03.05	治療中(自院)	2012.03.21	病死(肝細胞癌)	2012年3月5日受診。昨年より食事が食べられなくなったなどの体調不良の状態が続いていたが、無保険だったため受診を躊躇されていた。5年前に会社が倒産し失業したとのこと。その時60歳を超えていたのでその後就労はしなかった。知人の女性宅に居候。本人の年金あわせて14万7千ほどで生活されていた。無低の検討を行った。	0円	無保険で受診され、国保加入に同行する。国保限度額認定証を発行済み。	国保加入し治療するが、初診より17日に亡くなった。入院費は息子さん(疎遠になっていた)が支払いをして帰られた。内縁の妻が息子へTELし、十数年ぶりに面会し、孫と一緒に来て写真を撮ったりした。結局無低は利用せず。	なし
22	40代	男	非正規雇用	一人親世帯 母親と二人暮らし。母は年金暮らし(月10万円程度)	その他(母の持ち家)	無保険	健保組合 ↓ 無保険	無し	有り	2012.10.14	その他(初診救急)	2012.10.14	病死(出血性ショック)	高校卒業後派遣の仕事を経験。2012年9月まで北陵のA県で派遣(工場勤務)。組合健保あったが、期間満了とともに終了。寮費、食費を引かれ、1~2万円程度の収入であった。広島の実家に戻り、国保加入せず、無保険状態。体調不良を母に訴え救急来院。来院後3時間半で死亡確認。	0円	派遣期間中にも体調不良の訴えがあり、母が受診を促していたが受診しなかったよう。初診で救急来院。	休日夜間対応で保険証の確認もできず。翌日無保険である事が判明。本人死亡後であるため、国保加入も生保申請も出せず。院内で相談し、3割部分を無料低額診療適用。7割は母が預金から支払いをされた。事務職員とMSWで自宅訪問した。	
23	50代	男	アルバイト	独居	その他(車上生活)	無保険	生保申請後、本人も忘れていた生命保険解約金有り。申請辞退後、国保加入	無し	無し※無低診申請を準備したが、18日間の入院と並立、ご冥喜より定額給付金で支払う申請に支障をきたす。申請に至らず。	2012.10.22	治療中	2012.11.09	病死(肛門低分化腺癌)	2012年10月初旬、車上生活の男性が、痔で動けなくなっていること知り会いと名乗る女性から電話あり、一週間後本人受診。肛門癌と診断され即日入院となる。坂金業を自営していたが、失敗し自宅も売却にかけられ車上生活となった。月に数日アルバイトで板金の仕事を動けなくなるまでしていた。23歳で結婚し娘が二人いるが、妻とは離婚、疎遠となった。	0円	入院と同時に、生活保護申請するが、本人も忘れていた生命保険解約金の受領ができることから申請は垂れ流し、尿が出せない苦しさを訴え、膀胱癌・痔退国保加入となる。二年も前から症状はあったが無保険で、収入も少なく受診せず、市販の薬を内服していた。入院時には、全身転移で化学療法もできず手遅れの状態だった。	症状は改善せず、肛門筋肉も侵されていたためには垂れ流し、尿が出せない苦しさを訴え、膀胱癌・痔退国保加入となる。二年も前から症状はあったが無保険で、収入も少なく受診せず、市販の薬を内服していた。入院時には、全身転移で化学療法もできず手遅れの状態だった。	今回、保護開始とはならなかったが、保護の担当と係長が来院され、国保加入や兄による生保解約金受領の交渉など、協力的に援助があったのは、初めてのことである。
24	50代	男	非正規雇用	独居	借家・アパート	無保険			有り 無低診相談。経済的困難。即生活保護考えられる状態。受診する。肝臓腫瘍疑われる。即入院。生活保護申請。	2012.02.23	その他(特に病院へ行っていなかった)	2012.04.01	病死(肝臓・肺転移)	体調不良。無料低額診療相談(民生委員からの紹介)。解体業・板金屋など日給月給で働いていた。10月より体調も悪く仕事に行っていない。		初診だった。	診察、同日入院し検査するも肝臓ステージIVで肺にも転移していることがわかる。治療できる状態ではなかった。在宅に帰る準備もしていたが吐きなどおこり4月1日亡くなる。	
25	60代	男	無職	夫婦と成年子世帯	借家・アパート	無保険		無し	有り		その他	2012.08.21	自殺	片腕のしびれや言語障害を発症後、一切受診せず半年間がまんしていた。症状のため、仕事を辞めざるを得なかった。症状悪化し、2012年7月2日に市の保護課の紹介で、無料低額診療の相談に来院。	0円	市の保護課の紹介で、無料低額診療の相談に来院。生活状況聞き取りより、生活保護基準を完全に下回る生活が明らかになり、再度生活保護申請することとした。	再度生活保護申請に行ってもらおう。しかし生保は却下。それが原因で自殺された。	
26	60代	男	無職	夫婦のみ 内縁の妻と二人暮らし。	借家・アパート	無保険		無し	有り 2012.06.09相談有り。無低診適応。生活保護申請し、06.22より生保。		その他(紹介先の他院にて死亡)	2012.09.26	病死(全身性転移性癌)	3か月ほど前から右足に違和感有り。1か月ほど前から痛くて上げられない状態に、新聞等で無料低額診療を知っていた娘さん(別世帯)が受診をすすめ来院。国保保険料高いので、パチンコ店退職後は手続きしておらず無保険。内縁の妻のパート収入(9万円)のみで生活していた。		相談を受け無低診適応にて、治療・検査開始。あわせて生活保護申請準備。内縁の妻とは別れて単独にて生活保護申請し、受理されたと同時に悪性腫瘍(疑)にて病院を紹介。	6月26日より紹介先病院で入院治療おこなうも、腎臓が原発巣と思われる全身性転移性癌にて9月26日死亡。受診時にはすでに骨転移の状態だった。保険証があってもどの時点で癌が発見できたかはわからないが、もう少し早くには見つけられたと考えられる。	6月22日生活保護受理。その後支給決定となった。
27	60代	男	無職	キーパーソンは姉・弟だが二人とも他県に在住。知人しか頼れる人がいなかった。	借家・アパート	無保険		無し	有り 知人に連れてられ受診10割減免適応となる。	2012.02.02・瀬江診(無低診)2012.01.31	その他(全くどこへも受診してなかった。)	2012.06.29	病死(幽門前庭部癌)	半年ほど前より食欲低下・倦怠感・吐き気・胸〜腹痛あり現れていたが、症状が悪化したため知人の紹介で無低診である瀬江診療所へ受診。すぐに精密検査の目的にて当院入院となり、入院と同時に生活保護申請、認定されるも病状はすでに手術もできない状態の終末期であることが判明。すでに手遅れの状態であった。入院から4か月後死亡退院となる。				
28	70代	男	年金受給者	夫婦2人。年金収入のみ。	借家・アパート	国保資格証明書		無し	無し	2012.04.26	その他(全くどこへも受診してなかった。)	2012.05.24	病死(肺癌・癌性胸膜炎)	2年前より資格証明書になっていると初診日に相談に来られる。収入は夫婦の年金だが、約半が返済に消えており、保険料にまで手が回らないと。返済は今年中に終わるので生活保護は受けたくないと強い希望有り。受診は必要のため、市役所へ短期保険証を出してもらうよう交渉し発行してもらう。その後同日中に医大へ入院後、すでに手遅れの状態であり、当院へ転院後死亡退院となる。				

事例NO	年齢代	性別	職業	家族構成(詳細)	住居	保険	保険の推移	国保法44条にもとづく減免適	無料低額診療事業の適応	初診日	通院状況	死亡日	死因	事例(受診に至る経緯、職歴、世帯収入の経過)	事業所とのかかわり	結果(帰結)	自治体の生活保護対応など
29	50代	男	無職	一人親世帯 父(後期高齢・年金有)、弟(収入有)	借家・アパート	無保険	無保険 ↓ 短期証	無し	有り 生活保護基準を下回っているが、同居の弟の理解・協力が進まず、生活保護申請できず。状態は悪いが、お金が無く申請する意向にあるのでとりあえず無低で対応。	2012.05.01	治療中(他院)	2012.10.13	病死(狭心症?)	4月に発作のため病院に運ばれ入院。退院後も通院が必要だが、お金が無く、無低のある診療所へ紹介された。生活保護は入院中に一度相談したが、弟の所持金が基準を超えていたため申請できなかった。来院時は保険証が無く、先ず受診後に短期証を取得。その後家族と話し、再度生活保護申請するも、弟の所持金残がその後発覚し却下。その後も弟の理解・協力が進まず生活保護申請できなため、毎月短期証を更新していた。生活は同居の弟が家賃等を支払い、父が買った食事を分けてもらっていた。父の年金が2ヶ月で12万円、弟の給与が月10万円+夏冬賞与。本人が働いていた際は安定した生活を送っていたので、来院当時住んでいたマンションの家賃7.8万円を払っていたが、本人失業後は生活を圧迫していた。母親は早くに亡くし、別居の次男を除く男三人暮らしだった。最初に心臓を悪くして入院したところで高額な医療費を請求され(現在も滞納中)、継続通院できなくなり中断。その後さらに状態が悪化し、発作で倒れ別の病院に運ばれて、退院後に新室見に来院。心室内に1センチ大の血栓があり、退院後1週間ほどで再び手足、顔などに浮腫みが見られる程に状態が悪くなって行き、5月23日に再入院することとなった。	お金が無く、家族の協力も不明瞭、状態は見るからに悪いためとりあえず弟からわずかなお金を援助してもらい、短期証を取得していただきながら、無低にて通院してもらおうとした。状態が悪かったため病院に入院を受け入れてもらった。	退院後も通院治療を継続していたが、ある日道端で倒れ、心肺停止状態で病院に運ばれるもそのまま亡くなった。	最初に対応していた保護課担当の威圧的な対応で本人や家族が非常に萎縮していたため、市議を通じて担当者を交代していただき、丁寧に対応していただいたが、結局所持金の壁を越えられず生保申請できなかった。
30	50代	男	非正規雇用	独居	借家・アパート	無保険	↓ 無生活保 ↓ 護国保加入	無し	無し	2012.07.11	治療中(自院)	2012.08.29	病死(肝細胞癌)	夜間のアルバイト収入にて20万円/月の収入あり。路上にてけいれん発作認められ、救急車にて当院搬入。	20000円	7月11日救急搬送され入院。肝性脳症との診断。その後肝細胞癌見つかり、7月31日いったん退院するも、8月6日再入院。	7月入院時に相談したが、手持ち金がおよそ10万円あったため申請には至らず。一旦退院した際医療費の一部精算し、手持ちが減った時点で申請となった。
31	50代	男	非正規雇用	独居	借家・アパート	国保短期保険証	国保短期証 ↓ 生活保護	無し	有り	2012.02.14	その他(受診無し)	2012.05.22	病死(胃癌)	中卒後運送会社勤務等を経て、三十代からタクシー運転手、社保のある会社にも勤めた期間があるが、3年ほど前からはアルバイトのタクシー運転手で会社の寮に単身生活。給料は前借りせずには生活できない状況で、給料日は消費税を引かれて、ほとんど手元には残らないような生活だったとのこと。	2012年02月14日胃痛を主訴に当院初診。症状は半年前よりあり、前年春の健診にて体重4kg減。その後秋の健診では更に5kg減あり、体調不良続いていたが経済困難から受診できず。いよいよ食事も入らなくなり受診。胃癌・肝転移疑いにて2月16日入院となった。	入院時より、病状厳しく、5月22日死亡退院となった。	入院後2月17日MSW介入依頼あり面接。生保申請しその後受給となった。生保開始日(2月17日)前の一歩負担金について無料低額診療の承認となった。
32	50代	男	非正規雇用	独居	その他(住所不定)	国保短期保険証	国保短期証 ↓ 生活保護	無し	無し	2012.08.03	治療中(他院)	2012.10.24	病死(胃癌)	他県で住み込みの仕事をしていたが、体調が悪く、7月中頃からほとんど働けなくなり、7月末頃に故郷に帰ってきた。働いている頃は月に10日間働いて10万円ほどの収入だったが、現在手持ち金は3、4万円。以前かかっていた病院の紹介状を持って来院される。友人宅に居候しているらしく、胃カメラ後急性腫瘍の可能性が高いと判断し、入院をすすめるが、本人整理してからとのこと、8月8日入院となる。	0円	外来看護師より紹介有り。本人も生活保護の申請意思あったため、受診後申請に行くよう保護課にも事情を説明。保護課は家を探すようすすめていたが、家を探すにもお金がかなり、体調も思わしくないことを説明。結局本人が8月8日の入院時まで手持ち金があるからと、8月8日入院時に申請を行う。	
33	60代	女	無職	夫婦と成年子世帯	借家・アパート	無保険	無保険 ↓ 死亡後退職国保	無し	有り 生活保護基準をわずかに超えているが、資金が少なく、保険取増の目があったため、ひとまず無料低額診療にて対応。	2012.07.06	中断(他院)	2012.07.31	病死(多発性肝細胞癌・胃潰瘍穿孔・穿孔性腹膜炎)	1ヶ月程前まではかかりつけだった病院へ通院していたがくも膜下出血既往、夫がタクシー会社を体調悪化により退職してからは保険証とお金が無く受診を控えていた。数日前から腹痛がひどくなり、それでも保っていたが、夜も眠れないほどの痛みが続き、4日程食べることができない状態だった。社会福祉協議会相談後、診療所へ紹介された。夫も心筋梗塞の既往があり、同じ病院へ通院していたが中断だった。夫は以前それなりに給与の高い所で仕事をしていたが、妻がも膜下出血で入院した際、多額の入院費の支払いに困り、退職金で払うために退職し、タクシー会社へ転職した。タクシー会社は完全歩合制で空の無い月はほぼ給与が0円の時も合った。退職後も保険証の資格喪失書類発行してもらえず、次の保険証手続きができない状態に陥った。	収入は夫婦の年金が2ヶ月で18万円、次男が月12万円で合計21万円/月、生活保護基準を超えている。家賃は3.3万円。妻の体調が悪く、3Fから1Fに6/27に引越し、年金の残りを全て引越しに当ててしまった(25万円程)。車有り。長男は妻と5人で生活しており援助不可。三男も別居、結婚前で援助不可。夫の兄弟は熊本に、妻は東京に妹が二人、市内に弟が一人(身障・生保)、いずれも援助不可。市協から紹介のあった当日に来院してもらった。生保基準を超えているが保険が無く、お金も無いため、受診が抑制されていたと判断し、とりあえず無低で対応することとし、受診してもらおうと話をした。翌日所長の診察の上、そのまま入院に受け入れてもらった。	病院へ入院後、3度の手術で手を尽くすも、多発性肝細胞がん、胃潰瘍穿孔、穿孔性腹膜炎などの状態が悪化しており、1ヶ月も経たない内に、7月31日に病院にて亡くなった。ちなみに、この患者の夫は妻の状態が悪化し、亡くなってしばらくは妻のことでほとんどの時間を費やしていたが、それらが落ち着いた頃10月に胃痛を訴え、胃カメラを行ったところ、胃がんが見つかり進行性胃がん、多発肝転移、Ope不能、現在抗がん剤治療中。	

事例NO	年齢代	性別	職業	家族構成(詳細)	住居	保険	保険の推移	国保法44条にもとづく減免適	無料低額診療事業の適応	初診日	通院状況	死亡日	死因	事例(受診に至る経緯、職歴、世帯収入の経緯)	事業所とのかかわり	結果(帰結)	自治体の生活保護対応など	
34	70代	男	非正規雇用	独居	借家・アパート	国保短期保険証	障害者短期医療→証後期高齢→重度	無し	有り ご家族により、5・6月分の支払いはされたものの、借金も有り、11月死亡時はほとんど手元にお金がなかったことから、おむつ代等支払っていたため、残りの医療費は無料診療とした。	2012.05.25	治療中(他院)	2012.11.17	病死(脳梗塞)	独居で身より無し。定年までタクシードライバーをして、定年後もパートで働いていた。しかし年金担保の借金があり、保健も持っておらず、近医で直腸癌が見つかったやと保健をつくった。直腸癌のオペは成功するも、脳梗塞を起し、重度の麻痺と重度構音障害残存し、本人と意思疎通困難な状況になる。後見人の申し立てをする準備中に本人の容態悪化していく。	22897 0円 無料低額診療	容態悪化後、保護課に相談。保護課より3歳の時に生き別れた息子へ手紙を出し、息子来院。今後についてお話をする中で、後見人はたてず、息子が金銭管理をすることになる。しかし多額の借金があることがわかり、入院費についてどのような対応をしていくか事業所とも相談を重ねていた。	重度障害者医療証もでき、医療費の心配がいらないようになってから本人急死。今まで入費の支払いはすると書いていた息子であったが、手持ちの金では支払えないことが判明。3歳の時の生き別れた息子の厚意でここまでしてきてくれたがこれ以上の負担を強いることは困難であった。	年金自体は15万/月程度であったが、家・車の処分、市県民税・健康保険料の滞納、借金等があり、ご家族が整理をしていたが追いつかないまま本人死亡。手元にあるお金が無いため、事前に相談していた保護課に葬祭費を支給してもらった。
35	50代	男	無職	その他(兄、妹との三人暮らし。兄はトラック運転手だったが、入院中にリストラされる。妹はパート)	その他(亡くなった父親名義の持ち家)	国保短期保険証	来院前日まで保険料滞納による無保険。救急搬入前に妹が手続きを行い1ヶ月分の短期保険証を発行してもらい来院	無し	有り	2012.06.01	その他(無保険であったためかかりつけ病院なし。救急搬入で当院初診。)	2012.06.24	病死(胃癌・膵臓癌・肝臓転移)	日雇いの土木作業員をしていたが、3月頃より体調が悪く働けなくなった。受診したかったが保険料滞納で保険証が差し止められていたため受診できずにいた。入院1週間前より臥床がちであった。見かねた妹が市役所へ電話でどうすればよいか相談したが、生活保護は無理と言われ当院の無料低額診療を勧められた。搬入当日に保険料を一部払い込み、なんとか1ヶ月分の保険証を準備し救急搬入で当院へ入院となった。来院時、本人は無職。同居の兄はトラック運転手(契約)で18万円/月、妹はパートで6万円/月。その後、兄は契約解除となり無職となる。また、母親死亡時の葬儀代が借金として残っている。息子は2人いるが離婚時に本人が長男、妻が次男を引き取った。本人は育てておらず、妹と両親が長男を育てた。長男とは連絡がとれたが、家庭があり第2子が6月末に産まれる予定で、自分達の生活で精一杯で支払いが困難とのことであった。当院で入院治療を行なったが、当院来院時すでに癌末期で緩和ケア中心の治療を行ない、入院24日目に永眠された。	0円	医療費の支払い困難であり、無料低額診療事業を利用した。	救急搬入時には既に癌末期の状態であった。入院後24日目に永眠される。入院費については無料低額診療を利用し、医療費は全額免除となった。	生活保護申請も行ったが、同居の兄、妹の収入が生活保護基準額を上回るということで申請が行なえなかった。
36	60代	男	自営業	独居	借家・アパート	無保険	国保→無保険	無し	無し	2012.11.17	中断(数年前まで高血圧で近医を受診していたが中断。)	2012.11.18	病死(重症肺炎【結核疑】)	居酒屋を経営していた。2012年8月頃より痩せ始め、11月10日頃より更に体調不良になり息子や姪が受診を勧めたが拒否していた。3日前より嘔吐むよつたり、息子と姪が本人宅へ訪れ、救急要請した。元来、息子とも疎遠だったとの情報あり。	0円	11月17日(土)、救急搬入され初診入院となった。初診時、無保険だった息子と面談したところ、19日(月)に国保加入の相談に行くことになった。初診時より重症で敗血症や大量咯血などの急変が予想されていたが、翌18日(日)に心肺停止となり蘇生できず、死亡確認となった。	本人死亡後に息子が市役所国民健康保険係に保険加入の相談に行き、入院日に遡っての国保証発行となった。国保加入の上、息子が支払ったため未収にはなっていない。	急死したため、生活保護の話には至らなかった。
37	60代	男	無職	二世帯同居	その他(父親名義の持ち家)	無保険	17年前まで総合健保、退職後、来院時まで国保加入等の手続きせず無保険。	無し	無し	2012.08.31	その他(無保険であったためかかりつけなし)	2012.09.18	病死(小細胞肺癌)	もともと農業で生計を立てていたが7月頃より体調不良あり仕事が出来なくなる。父親の年金、農業の奨励金90万円などでなんとか生活。農具の借金、亡くなった兄の借金有り。資産は同居の父親名義での自宅、山、田畑などあり。受診をしたかったが保険証がなくどうすればいいかわからず市役所へ相談したところ、無料低額診療を行なっている当法人と他法人を紹介された。自宅近くの他法人へ相談したところ無保険ということで断られた。その後近くの当法人のAクリニックを受診。胸写異常影があり、当院へ紹介となり入院。入院後、細胞診を行い小細胞肺癌が確定。治療を行なっていたが、入院から19日目に永眠された。	0円	本人に代わり国民健康保険加入手続きを行なった。退職した17年前から手続きを行なわなかったため無保険であった。国民健康保険への加入には年金事務所が発行される社会保険期間証明書が必要であったが、発行に必要な基礎年金番号も割り当てられておらず手続きに手間がかかったものの国民健康保険の加入が出来た。国保課へ経過と病状について説明、交渉し、入院日まで遡ってもらうことができた。	入院時既に肺癌末期であった。検査行い、小細胞肺癌と判明した。入院加療行っていたが入院から19日目に永眠された。入院の支払いは本人の希望としており生命保険の死亡保険金からの支払いとなった。(健康保険には加入していなかったものの生命保険には加入しており、月1万円を支払っていた。)未収金はなし。	受診前に市役所へ電話相談したところ無料低額診療をしている当院と他院を紹介され、生活保護の相談などは勧められなかった。生活保護の申請も検討したが土地などの資産があると、生命保険で死亡保険金を受け取り、農具の借金も支払いたいという本人、妹の意向もあり生活保護の申請には至らなかった。
38	70代	男	無職	独居	借家・アパート	無保険	国保→無保険→生保	無し	無し	2012.07.19	その他(無保険であったためかかりつけなし)	2012.08.13	病死(胃癌・リンパ節転移・骨転移)	当院初診1週間前まで駐車場の警備員をしていた。体重減少、身体のだるさ等あり、仕事ができなくなった。受診をしたかったが、保険証無く受診できなかった。生活保護の申請をすすめられ、生活保護の申請を行った。その際に市役所担当者へ相談し、当院を紹介され受診した。受診時に胃癌が疑われ、精査行い胃癌末期の診断となった。	3980 円	受診前に市役所生活保護担当者より当院へ「本日生活保護の申請書を受理したので受診をしてほしい」との電話あり、その後本人が受診された。来院時顔面蒼白であったが、なんとか自力歩行できていた。本人からも受診をさせてほしいという相談あり、診察を行い入院となった。	当院初診から26日目に永眠された。唯一の身寄りである甥夫婦は積極的な治療を希望し、本人も少しでも長生きしたいという気持ちもあり、病状安定した入院20日目に一旦退院し、PET、MRI検査を他院で行ない外来治療を行なっていく予定であったが、2日後に緊急入院し、2回目の入院から4日目に急変し死亡退院となった。甥は死を受容できず、それが当院への不快感につながってしまい、診断書代病衣代が未収のままとなっている。	生活保護を申請した当日に、市役所生活保護担当者へ病院への受診を相談し、当院を紹介され受診。市役所生活保護担当者からも受診相談の電話あり、受診された。その後、生活保護決定。
39	60代	男	無職	一人親世帯	持家(土地は市所有)	国保短期保険証	国保短期保険証→生活保護	有り	不明	2011.10.01	治療中	2012.09.03	病死(多発性脳腫瘍)	当院にて6年前に大腸癌の手術を受ける。その後、中断対策対象者として対応。冬場に風邪症状有り咳だけが持続しており体調不良ではあったが経済的な不安も有り放置。今回2011年10月左胸部～背部の痛みにて受診。結果、肺に転移し手術適応はなく末期的な状態に入り入院。精査(気管支鏡)必要と説明しける。しかし①88歳の要介護状態の母の介護をしている。②5年前から仕事はしておらず、母親の年金で生活。③医療費の支払いの心配などで入院を渋っていると連絡あり対応。保健→国保(年金なし)生命保険等の加入なし職歴→5年前までは学習塾収入→1母の年金13～14万円		すぐに入院、精査・治療できるよう対応。母親は施設入所の手続きをしていただいた。医療費について母親の入所を踏まえ、本人の生活保護取得について本人と同行した。預貯金などの問題があり何らかの自立支援課へ相談し、認定に至った。あまりにも厳しい生活保護基準が大きな壁となった。	生活保護が取得可能となったことを確認し、病院にて放射線療法を行い当院で化学療法のため入院退院を繰り返していた。しかし白血球減少、全身状態悪化し断念。その後は疼痛コントロール、対症療法で対応。徐々に運動機能低下し寝たきり状態となり永眠。	当初は対象外と判定されたが、事情を説明に幾度も訪問。相談に対して丁寧に対応していただきました。